

3. がん予防

(1) 現状と課題

各種がん検診受診率

村のがん検診受診率は、表 1 のとおり胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん検診は全国や北海道と比較して高い状況です。子宮がんは、全国や北海道と同程度です。また、国の第 3 期がん対策推進事業計画に掲げるがん検診受診率目標の 50%からはかけ離れている状況です。また、国の第 4 期計画では令和 10 (2028)年度の目標値を 60%と設定しており、村でも更なる受診率の向上が必要です。

女性特有のがん検診については、受診しやすい体制づくりとして、平成 29 年度より受診可能な医療機関を拡大しています。また、子宮・乳がん検診については年度の途中で対象者へリコールハガキを送付し、受診勧奨を実施しています。その他のがん検診についても特定健診と併せた普及啓発、新規および継続受診に向けた対策や取り組みが必要といえます。

表 1 各種がん検診受診率の状況

		胃がん		肺がん		大腸がん		子宮がん		乳がん	
		受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率
令和元年度		157 人	18.7%	264 人	16.5%	206 人	12.9%	96 人	15.4%	104 人	23.9%
令和 2 年度		156 人	18.5%	254 人	16.0%	205 人	12.9%	101 人	17.4%	74 人	23.1%
令和 3 年度	村	149 人	17.2%	263 人	17.0%	210 人	13.5%	88 人	16.5%	88 人	21.1%
	全国	-	6.5%	-	6.0%	-	7.0%	-	15.4%	-	15.4%
	北海道	-	4.9%	-	4.0%	-	4.8%	-	16.3%	-	13.7%

資料：厚生労働省、地域保健・健康増進事業報告(令和元年度～令和 3 年度)

※各種がん検診の受診者数及び受診率は、40 歳～69 歳(胃がん検診は 50 歳～69 歳、子宮がん検診は 20 歳～69 歳)で算出。

※胃がん及び子宮がん、乳がん検診受診率は、「((当年度受診者数)+(前年度受診者数)-(2 年連続受診者数))÷ 当年度対象者数 × 100」で算出。

各種がん検診精密検査受診率

がん検診で、精密検査が必要となった人の精密検査受診率は、がん検診に関する事業の評価指標の一つとなっています。

村の各種がん健診の精密検査受診率は、概ね 75%～100%代で推移していますが、胃がん・肺がん検診は国の第 4 期がん対策推進事業計画に掲げる精密検査受診率目標の 90%までには達していません。

毎年、がん検診受診者からは、がんが見つかったため、今後も受診率の向上とともに、精密検査対象者が適切な受診につながる働きかけが重要です。

表 2 各種がん検診精密検査受診率の状況

	胃がん		肺がん		大腸がん		子宮がん		乳がん	
	受診率	がん 発見者数	受診率	がん 発見者数	受診率	がん 発見者数	受診率	がん 発見者数	受診率	がん 発見者数
令和元年度	83.3%	1人	-	-	84.6%	2人	100%	0人	100%	0人
令和2年度	91.7%	0人	100%	0人	79.3%	1人	100%	0人	100%	0人
令和3年度	75.0%	0人	100%	0人	84.9%	2人	100%	0人	100%	1人

資料：厚生労働省、地域保健・健康増進事業報告(令和元年度～令和3年度)

※各種がん検診の受診者率及びがん発見者数は、40歳～69歳(子宮がん検診は20歳～69歳)で算出。

※精密検査対象者がいない場合は「-」で記載。

がんによる死亡について

平成28年度～令和元年度までの75歳未満の死亡原因では、41.3%の人ががんで亡くなっています。

がん死亡の原因は、肺がんが多い状況です。

予防可能ながんのリスク因子として、喫煙(受動喫煙を含む)、飲酒、低身体活動、肥満・やせ、野菜・果物不足、塩蔵食品の過剰摂取等があげられます。これらに対する対策を行っていくことで、がんの罹患率を減少させるとともに、治療効果の高い早期がんを発見し早期に治療することで、がんの死亡率を減少させることが重要です。

表 3 75 歳未満のがんによる死亡状況

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	計
総死亡	17 人	8 人	17 人	4 人	46 人
がん死亡	6 人	5 人	7 人	1 人	19 人
	35.3%	62.5%	41.2%	25.0%	41.3%

資料：十勝地域保健情報年報(平成 28 年度～令和元年度)

表 4 がん死亡原因

	胃	大腸	肺	子宮	乳	前立腺	肝・胆・膵	食道	その他	計
男性	6 人	4 人	7 人	-	-	4 人	5 人	-	3 人	29 人
女性	1 人	1 人	3 人	1 人	5 人	-	8 人	-	2 人	21 人
計	7 人	5 人	10 人	1 人	5 人	4 人	13 人	-	5 人	50 人

資料：十勝地域保健情報年報(平成 28 年度～令和元年度)

(2) 目標

- ☐ がんを予防するための生活習慣について、知識の普及啓発
- ☐ がん検診受診率向上への取り組みの推進
- ☐ がん検診要精検者への受診勧奨・重症化予防への取り組みの推進

指 標		第 2 期計画策定時	現 状	目 標
がん検診 受診率の向上	胃がん検診	20.5%	17.2%	30.0%
	肺がん検診	18.8%	17.0%	30.0%
	大腸がん検診	14.8%	13.5%	30.0%
	子宮がん検診	11.0%	16.5%	30.0%
	乳がん検診	15.9%	21.1%	30.0%
がん検診 精密検査 受診率の向上	胃がん検診	84.2%	75.0%	90.0%
	肺がん検診	-	100%	100%
	大腸がん検診	72.2%	84.9%	90.0%
	子宮がん検診	-	100%	100%
	乳がん検診	0.0%	100%	100%

(3) 第 3 期計画における対策・取り組み

項 目	内 容
がんを予防するための生活習慣について、知識の普及啓発	・各保健事業を活用して、がんの発生リスクを高める喫煙、食事（高脂肪・食塩等）、運動不足、飲酒、肥満等の生活習慣の改善の普及啓発
がん検診受診率向上	・広報等による周知・啓発 ・がん検診推進事業により、一定年齢に達した方へ検診手帳および無料クーポン券の配布 ・個別受診勧奨 ・検診受診体制の検討（管内医療機関との調整）
がん検診要精検者への受診勧奨・重症化予防	・がん検診要精密検査者に対して、がん検診実施機関と連携を図りながら精密検査の受診勧奨を実施